

ウ：飾り窓」のことだとわかるので、それを和訳に反映した方がよい。2つ目の that 節中には much more sensible (ずっと賢明である) という比較級があるが、省略されている比較の対象は直前の部分にある to want everything in the toyshop window である。したがって、「それよりも」といった訳で処理しておくがよい。something useful (役に立つ物) の後ろにある「コロ (:)」は詳細を表している。

- (3) a 「今日の小説で子供たちについて書かれたものはほとんどない。」第1段落第1文には、現代小説の驚くほど高い割合が子供たちに関するものであることが述べられているので、これは×である。
- b 「ヴィクトリア女王時代の小説では、子供たちが虐待されていることはめったにない。」第1段落第2文には、ヴィクトリア女王時代の小説とは違って、現代の小説では子供たちが虐待されていることはないとのことで、×である。
- c 「子供たちに関する現代小説に登場する大人たちが不幸なのは、子供たちが大人に多くの耐えがたい要求をするからである。」第1段落第5文には、大人たちが不幸であるために子供たちからの要求に耐えられなくなっていることが述べられている。この選択肢では因果関係が逆転しているので×である。なお、第4文の後半には、大人たちが不幸である理由として、口論したり、お金や政治のことを心配したりするのに忙しいことが挙げられている。
- d 「ルソーによると、子供たちと大人たちは基本的に同じ問題や特質を持っている。」第2段落第6文には、子供は独自の問題と特質を持っているとあるので×である。
- e 「マライア・エッジワースの教訓物語に登場するロザモンドは、シェークスピア以降のイギリス文学史上で最初の生身の子供であった。」第3段落第1文の内容と一致するので、○である。
- f 「ロザモンドの苦悩は恒久的なものではないと筆者は考えている。」第5段落第1・2文には、ロザモンドが子供時代は発達の一過程にすぎないことを認識していることと、そしてそのために彼女の苦悩がそれほどひどいものには思われなことが述べられている。したがって○である。

全訳

現代小説をかなり読む人は誰でも、その驚くほど多くの割合が子供に関するものであること、それも非常に不幸な子供たちに関するものであることが多いことも知っているだろう。公平に見て、子供たちは(ヴィクトリア女王時代の小説の子供たちとは違って)少しもひどい虐待を受けてはいない。親に殴られたり、地下の石炭貯蔵庫に閉じ込められたり、いたずらをしたら地獄の火で永遠に焼かれるぞと言われてたりすることはあまりない。子供についての現代小説に登場する大人は、このような残酷さを見せるほどたくましくはないようだ。小説の中の大人が自分の子供を不幸にさせているのは、自分自身が不幸だからである。つまり、大人同士で口論したり、お金や政治のことを心配したりするのに忙しかったり、現代心理学が見つけてくれた何らかの微妙な点で不幸なのである。すなわち、大人が不幸なせいで、子供が自分に対して求めていることへの想像力がなく、それを受け入れられないようだ。その結果、大人は子育てにおいて、大きくて邪悪な世界と子供との間の緩衝材としての役割を果たすことができない。現代小説の中の子供たちはヴィクトリア女王時代の小説家ならば容認し

なかったほど多くのものを見聞きして、したがって彼らは苦しむのである。それは無垢から経験へと非常に苦しみながら進むという昔からある話ではあるが、確かなことは、これまでの文学において無垢がこれほど無防備であったこと、運命の一撃がこれほど厳しくこれほど不可解なものであったことは、かつてなかったということである。

だが、常にこうであったというわけではない。子供たちが最初に小説に登場した時には、彼らは本当にきちんと保護されていた。教育もなされていた。子供たちがかなり特別な存在であることを現代社会に思い起こさせたのは、当然ながらルソーであった。子供たちは大人のミニチュアではなく、彼らには独自の問題と特質があるというのだ。結局のところ、ルソーの教育論に従って我が子を育てようとした人たちは、実際にはその理論はうまくいかないと気づくことが多かった。勝手気ままに振る舞い、自然の教えから学ぶことを許された男の子は時には、大きくなるととても強情になったので、むちで打たれたり、植民地や海へ送り出されるはめになった。だがルソーの影響は好結果を生んだ。子供たちの視点から世の中がどのように見えるのかを理解しようとするのが初めてきちんと認められるようになった。これはあらゆる教育専門家志望者にとって必要な基本的理解であるという点で誰もが一致した。

イギリス文学に関する限り、シェークスピア以降で最初の生身の子供は、18世紀末のマライア・エッジワースによる教訓物語に登場したと言っても差し支えないと思う。その子供の名前はロザモンドで、母親と一緒に通りを歩いていて、おもちゃ屋の前で立ち止まる場面で登場する。「ああ、お母さん、そこにある素敵なおもちゃ全部が私のものだったら、どんなにかうれしいでしょう」と彼女は言う。「何ですって、全部？」と母親は驚いて訊く。「ロザモンド、そこにある物全部を欲しいの？」「そう、お母さん、全部よ」とロザモンドは言う。

ロザモンドには新鮮味がある。だが彼女は、ただの子供ではない。彼女は精神世界を旅する者であり、旅する間に無垢から経験へ、無知から知識へと目に見えて成長していくのが読み取れる。⑥おもちゃ屋のショーウィンドウにある全部の物を欲しがるのは間違っていること、それよりも何か役に立つもの、例えば靴を欲しがる方がずっと賢明であることを彼女に教える方法をロザモンドの母親はすぐに見つける。するとロザモンドはそれに同意せざるを得ない。「きつと、ううん、自信はないけれど——できれば、この次はもっと賢くなっているわ」と彼女は言う。

彼女は単に子供であるばかりでなく、自分が子供であることを意識していて、子供時代というものは自分が発達する段階の1つにすぎないことを認識している。そしてそういうわけで彼女の苦悩はそれほどひどいものには思われない。

注

- ℓ. 2 ◇ as often as not 「しばしば」 = more often than not
◇ to be quite fair 「公平に見て；公正を期すために言えば」 独立不定詞の表現。
- ℓ. 3 ◇ with brutality 「残酷に」
- ℓ. 4 ◇ coal cellar 「(住宅の) 石炭貯蔵地下室」
- ℓ. 5 ◇ naughty *adj.* 「いたずらな」
◇ perpetually *adv.* 「永久に」
◇ hell-fire *n.* 「地獄の火〔苦しみ〕」

- ℓ. 9 ◇ one or other of the ~ 「～のうちのどれか一方」
- ℓ. 11 ◇ make a demand upon ~ 「～に要求する」
 ◇ shock-absorber *n.* 「衝撃吸収材；緩衝器」
- ℓ. 13 ◇ far more than the Victorian novelists would have permitted 「ヴィクトリア女王時代の小説家ならば容認したと思われるよりもはるかに多くのもの」《直訳》→「ヴィクトリア女王時代の小説家ならば容認しなかったであろうほど多くのもの」この部分には仮定法過去完了が使われている。
- ℓ. 14 ◇ innocence arriving most painfully at experience 「無垢が非常に苦しみながら経験に到達すること」この arriving は動名詞で、innocence はその意味上の主語になっている。
- ℓ. 15 ◇ never before in literature, surely, has innocence been so defenseless : ここでは never before in literature という否定語句が強調されて前に出ている。そのため後ろでは innocence has been so defenseless となるはずのところ倒置されている。なお、surely は「確かなことだが」という意味の文修飾の副詞が挿入されたもの。
 ◇ blow *n.* 「一撃」
- ℓ. 17 ◇ case *n.* 「実情」
- ℓ. 18 ◇ It was Rousseau, of course, who reminded the modern world that children were rather special creatures. : it is ~ that … の強調構文で、この場合は強調されているのが Rousseau という‘人’なので、that の代わりに who が用いられている。
- ℓ. 20 ◇ as it turned out 「それは後になって判明したことだが」《直訳》→「結局のところ」
- ℓ. 22 ◇ run wild 「(子供が) 勝手気ままに振る舞う」
- ℓ. 23 ◇ strong-willed *adj.* 「強情な；意志の強い」
- ℓ. 24 ◇ whip ~ *vt.* 「～をむち打つ〔折檻する〕」
 ◇ all to the good 「有利な；好都合の」
- ℓ. 25 ◇ try and understand ~ 「～を理解しようとする」
- ℓ. 27 ◇ would-be ~ 「～志望の」
- ℓ. 28 ◇ so [as] far as ~ is concerned 「～に関する限り」

【2】

全訳

ところで、稀少であることが価値を生み出すということは、経済の一般的原則である。

①サハラ砂漠の真ん中にいる人は、ロンドンのレストランでならただでもらえると思う1杯の水を求めて、喜んで一財産を投げ出すかもしれない。また、19世紀の音楽を愛する者は、自分の趣味を追求するために、かなりのお金と時間を犠牲にしなければならないかもしれないし、たぶんそうすることを厭わないだろう。

ラジオやレコード・プレーヤーの出現は、この状況に信じられないと言っていくくらいに状況を変えてしまった。①ある人にとっては、これまでの状況は、音楽を経験するために犠牲を払うという問題よりはむしろ、音楽から逃げるために喜んでお金を払うという問題となってしまうている。音楽は、空気のように、私たちの生活を取り囲む、騒音体系の一部と

なってしまったのだ。もっとはっきり言えば、音楽は絶えることなく放送され、ばらまかれて
いるのだ。

【3】

ポイント

文章そのものに難しいところはないだろう。環境問題はいろいろなところで話題になること
が多い。作文の問題に取り上げられることも十分考えられるので、関連した用語を覚えて
おきたい。

解答

Recycling is the process of collecting used resources and remanufacturing them into
new products instead of throwing them away as garbage. Recycling newspapers, for
instance, helps to preserve forests, because fewer trees have to be cut down to make
pulp.

別解

Recycling means the process of making new things by collecting used resources
rather than discarding them as trash. If you recycle newspapers, for example, you can
save some trees from being felled for pulp, and this contributes to the preservation of
forests.

解説

「リサイクルというのは…するプロセスのことです。」Recycling is the process of …ing. と
いう形にする。「～を収集し、新製品に作り直す」「～を収集する」と「新製品に作り直す」
を and で並列的に結んでもよいし、「～を収集することによって新製品を作る」としてもよ
い。

「～をリサイクルすれば…になる」「～をリサイクルすれば」を when 節や if 節で表すこと
ができる。また、「～をリサイクルすること」という名詞表現を主語にして無生物主語構文
で簡潔に表すこともできる。

「…ために伐採される樹木が少なくて済む」一般的な人あるいは「新聞紙のリサイクル」を
主語にして、「いくらかの樹木を伐採されることから救うことができる」と考えるとよい。
他には「より少ない樹木」を主語にして「より少ない樹木が伐採される」と考えることもで
きる。

「森林保護の一助になる」「森林保護」という名詞表現を使って「(～が) 森林保護に貢献する」
としてもよいし、「森林を保護する」という動詞表現を使って「(～が) 森林を保護するこ
とを助ける」としてもよい。

- 「リサイクル」は「～を再利用する〔再循環させる〕」という意味の他動詞 recycle を用
いる。「リサイクル」という名詞表現にするなら recycling とする。
- 「使用済みの資源」used resources
- 「ごみ」garbage や trash とする。どちらも不可算名詞。
- 「捨てないで」「～を捨てる」は throw away ～や discard ～。「…しないで」は instead
of …ing や rather than …ing という形にするとよい。

- 「～を収集する」collect ～；gather ～
- 「新製品に作り直す」「新製品」は new things や new products。「～を…に作り直す」は (re)make ～ into …や (re)manufacture ～ into …とする。manufacture は機械を使った大規模な生産を表す。
- 「…するプロセス」「プロセス」はそのまま process でよい。「…するプロセス」は the process of …ing とする。
- 「新聞紙」は、ここでは冠詞を付けずに newspapers とする。
- 「樹木を伐採する」cut down trees や fell trees とする。
- 「～が少なく済む」「より少ない樹木が伐採される（必要がある）」と考えれば fewer trees are [have to be] cut down のようになる。また、「いくらかの樹木を伐採されることから救う」と考えて save some trees from being cut down [felled] のようにすることもできる。この場合の主語は一般的な人でも「新聞紙のリサイクル」でもよい。
- 「森林保護」「森林を保護する」という動詞表現にするのなら preserve forests である。名詞表現にするのなら the preservation of forests となる。
- 「～の一助になる」contribute to ～や、「…することを助ける」と読み換えて help (to) …としてもよい。

【4】

ポイント

入試問題で取り扱われる自由英作文のテーマとしては、描写型・議論型のものが多いが、表やグラフ・図を読み取る能力 (visual literacy) を問う説明型のものもある。自由英作文の他に、グラフを使った長文読解問題が出題されることもあるので、グラフを読み取る練習はぜひ積んでおきたい。今回のグラフは、1989年から2008年までの非正規雇用者の年齢階級別の割合の推移を折れ線グラフで表したものになっている。大きく変化している部分だけに注目するのではなく、長期的な傾向についてもふれると、よりまとまりのよい文章になるだろう。異なる年齢階級同士の比較もポイントになる。

解答例

First, the percentage of non-regular staff among those aged 65 years and over had always been the highest of all the age groups. Second, the percentage of those aged from 15 to 24 years had more than doubled in the twenty years from 1989 to 2008. Third, among other age groups, the percentages had also increased over the twenty years, but at a much slower rate. (66 語)

別解

Until the middle of the 1990s, the proportion of temporary workers or part-timers did not grow so remarkably. However, there had been a dramatic increase in the youngest age group since 1994 and nearly half of these young people could not find full-time employment in 2008. This is a serious problem, because the future of our country rests on them. (60 語)

今回のテーマは「年齢階級別の非正規雇用者の推移」という、フリーター (“freeters”)・未婚化 (the trend to remain single)・出生率の低下 (declining birthrate) などとも関係した社会問題に関するものになっている。グラフは、総務省統計局刊行「Statistical Handbook of Japan 2008」(<http://www.stat.go.jp/english/data/handbook/index.htm>) からの引用であり、その中ではアルバイトや派遣社員、その他の非正規労働者の割合の変化について述べられている。年齢階級別の割合の変化とともに、全体の変化にも注目すると読み取れることはいろいろとあるので、60～70語でまとめるためには、取り上げるものを絞り込む必要がある。さらには、変化から読み取れる背景についての説明を補足するのでもいいだろう。

まず、全体の変化の傾向を見てみよう。1989年と2008年を比較してみると、多少の増減はあるものの、すべての年齢階級において非正規雇用者の割合は増加傾向にあることがわかるだろう。

次に、年齢階級別の変化に注目してみよう。65歳以上の非正規雇用者の割合は、すべての期間において年齢階級別に見て最も高い。1989年当時からすでに50%近くあったのが、2008年には70%に達している。この年齢階級に非正規雇用者が多いのは、勤務先を退職した後で、非正規雇用されるケースが多いためと思われる。また、同様に急増しているのが、15～24歳の年齢階級で、1989年には20%程度だったのが、2008年には45%以上になっていることがわかる。こうした傾向が見られる原因としては、長引く不況 (prolonged recession) による、新卒採用の減少などが考えられ、これが「フリーター」という社会現象となって現れていると考えることもできるし、将来の日本の担い手である今日の若者がこうした状況にあるのは深刻な問題だと述べることもできる。

以上の点の中からポイントを絞ってまとめることになるが、一貫性のある英文になるように注意すること。流れを作りにくい場合には‘列挙’する時のディスコース・マーカー、例えば、「第1に」first (ly); in the first place; first of all; to begin with, 「第2に」second (ly); in the second place, 「次に」next; then, 「最後に」finally; last などを使うとよい。変化が起きている原因についての分析をする時には、This may be because … (この理由は…かもしれない); from this fact we can assume … (この事実から…が推測できる) などと続ける。語数に余裕があれば、最終文に今後への展望などを盛り込むと他の解答との差別化ができるだろう。

「解答例」で使った表現を中心に以下取り上げる。

- 「割合；比率」 percentage; proportion; rate
- 「非正規雇用者」 non-regular staff; temporary workers or part-timers
- 「65歳以上の」 aged 65 years and over
- 「15歳から24歳の」 aged from 15 to 24 years; between the ages of 15 and 24
- 「正規雇用」 full-time employment
- 「(将来などが) ～にかかっている」 rest on ～
- 「横ばいである」 stay [remain] unchanged
- 「倍増する」 double

- 「ゆっくりと」 slowly ; at a slow rate ⇔ 「急速に」 rapidly
- 「著しく；目立って」 remarkably
- 「激しく；劇的に」 dramatically ; drastically ; sharply
- 「徐々に」 gradually ; increasingly

【5】

解答・解説

A.

- (1) **i** 「海は荒く、我々の船は波のなすがままだった。」
 ○ at the mercy of A [at A's mercy] 「Aのなすがままで」 (= unable to do anything to protect yourself from ~ ; wholly in the power of ~) ◆ 598
- (2) **a** 「彼女は大きな蛇を見てぎょっとした。」
 ○ at the sight of ~ 「~を見て」 (= on seeing ~)
cf. lose [catch] sight of ~ (~を見失う [~を見つける]) ◆ 599
- (3) **e** 「我々は言葉を用いて考えを表現する。」
 ○ by means of ~ 「~の手段によって」
 (= by the agency or instrumentality of ~) ◆ 600
- (4) **j** 「私はアメリカ経由でヨーロッパへ行きます。」
 ○ by way of ~ 「~を通して」 (= via [vɪə]) ◆ 602
- (5) **b** 「彼女は笑われないようにずっと黙っていた。」
 ○ for fear of ~ 「~しないように」 (= to avoid the risk of ~)
 = She kept silent for fear that she should be laughed at. ◆ 603
 ※ for fear that ... = to avoid the risk that ...
- (6) **f** 「彼女は健康のために田舎に移った。」
 ○ for (the) sake of A [for A's sake] 「Aの利益 [目的] のために」 (= in order to help, improve, or please ~) ◆ 605
- (7) **d** 「彼の努力から考えると、きっと試験に合格すると思う。」
 ○ in view of ~ 「~を考慮して；~の点から考えて」 (= considering ~) ◆ 606
cf. in A's view [in the view of A] (Aの意見によれば；Aの見地からすれば)
- (8) **c** 「私は週5日制に賛成です。」
 ○ in favor of A [in A's favor] 「Aに賛成して」 (= in support of ~) ◆ 611
- (9) **g** 「ビルは父親の代わりにその会合に出席した。」
 ○ in place of A [in A's place] 「~の代わりに」
 (= in exchange for ~ ; instead of ~) ◆ 613
- (10) **k** 「火事の場合は消防署に電話をください。」
 ○ in case of ~ 「~の場合は」 (= in the event of ~) ◆ 615
- (11) **h** 「野球の試合は雨のために中止となった。」
 ○ on account of ~ 「~のために；~という理由で」 (= because of ~ ; due to ~ ; owing to ~ ; thanks to ~) ◆ 622

- (12) I 「快晴だったにもかかわらず、空気はやや冷えていた。」
 ○ in spite of ～ 「～にもかかわらず」 (= notwithstanding ～) ◆ 626

B.

- (1) essential [indispensable ; necessary] to [for] ◆ 572
 ○ essential [indispensable] to [for] ～ 「～に不可欠な」
 ○ there is no …ing 「…することはできない」
- (2) peculiar [proper] to [characteristic of] ◆ 573
 ○ peculiar [proper] to ～ 「～に固有な」
 ○ peculiar 「固有の」
 ○ proper 「固有である」
- (3) common to ◆ 574
 ○ common to ～ 「～に共通の」
 ○ common 「共通の」
- (4) opposed to ◆ 579
 ○ be opposed to ～ 「～に反対する」
- (5) composed of ◆ 582
 ○ be composed of ～ 「～から成っている」
- (6) As for ◆ 592 [591]
 ○ as for ～ 「(先ほどの) ～について言えば」
 ○ 通例文頭で用いる。
 ○ as to ～ は人以外に用いる。
- (7) Apart [Aside] from [Except for] ◆ 597
 ○ apart [aside] from ～ 「～は別として」
 ○ except for ～ 「～を除いて他は」
- (8) on, terms [very, friends] ◆ 608
 ○ on ～ terms (with …) 「(…と) ～の間柄で」
 ○ ～には形容詞が入る。
e.g. on first name terms ((ファーストネームで呼び合うほど) 親しい間柄で)
 Tom and Jim have been very good friends ～ としても可。
- (9) behalf ◆ 616
 ○ on behalf of ～ 「～の代理として」
- (10) Because of [Owing to ; Due to ; Thanks to] ◆ 621 [623, 624]
 ○ because of ～ 「～のために」
 = Because he became [got ; fell] ill frequently, …